

SNS タイアップ広報・第六弾 塩ビと難燃性

— 9/30 公開後、約 2 週間でおよそ 22 万人に読まれる —

・塩ビ工業・環境協会(VEC)は、広く世間一般に向けて、塩ビに対して「正しく理解」してもらうことを目的に、2 年前から SNS タイアップ広報を始めました。今まで、回数を追うごとに読者数は増加しており、6/30 公表の第 5 弾【塩ビの可塑性】*については、約 45 万人に読んでいただき、121 の「いいね」をいただきました。

今回、【塩ビの難燃性】をテーマにした第 6 弾の SNS 広報について紹介します*。

(タイトル:—「わあああ！ ロウソクが倒れた！」慌てて火を消すと？「買って置いてよかった」—)

今回の SNS 広報・第六弾は、9/30 に公開され、10 月中旬までで、約 22 万人に読んでいただきました。

*第 5 弾、第 6 弾は、塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)の取り組みとして実施しています。

塩ビ(PVC)は、プラスチックでありながらその重量の約 60%が天日塩に由来する塩素で構成されています。ポリエチレン(PE)やポリスチレン(PS)などに代表されるプラスチックは、その重量のほぼすべてが化石資源を原料としており、図 1 に示したようにバーナーの炎で着火してやると試験片はよく燃えます(図 1、左=ポリエチレン、中央=ポリスチレン)。これに対して、塩ビは試験片が炎の中にある間は燃焼するのですが、一旦、試験片を炎から出すと自然消火します(図 1 右)。この性質を自己消火性といい、塩ビは汎用プラスチックでありながら、他のプラスチックとは燃焼挙動が大きく異なります。この燃え難い特性に加え、加工性や意匠性に優れることから塩ビはみなさんの居住空間(インテリア)に多く使用されています。



出典: プラスチックとわたしたちの暮らし(日化協作成DVD)

図 1 プラスチックの燃える様子

一般的な建物火災では、火災発生から 5~10 分程度で、室内温度は約 500℃に、更に火災の拡大につれて 1100~1200℃にもなるそうです。しかし、出火直後の「初期段階」であれば炎は小さく、消火器などによる「初期消火」が可能と言われています。

居住空間に難燃性の材料を使用することは、万が一の出火を起り難くすると共に、出火直後の炎の拡大を遅らせ、「初期消火」を行なう時間を増やす＝消火の可能性を向上させるとも言えます。

今回の SNS 広報では、塩ビの特長＝難燃性を紹介しています。漫画家 岡野く仔氏によるマンガと解説文の 2 段構成で、スツと読めるように工夫していますので、是非ご覧ください。

<https://grapee.jp/2048325>

なお、居住空間に燃え難いものを取り入れることは重要ですが、防火には火の扱いに十分に気を付ける事と初期消火が大切です。

マンガ全体は次ページのとおりです。



以 上

